

平成 23 年度

病害虫発生予報第 5 号

平成 23 年 8 月 18 日

三重県病害虫防除所

515-2316 三重県松阪市嬉野川北町 530

TEL 0598-42-6365 Fax 0598-42-7568

ホームページ<http://www.mate.pref.mie.lg.jp/boiyosyo/>

目 次

	ページ
1. 向こう 1 か月の予報と対策	1
2. 作物別の状況	2
3. 発生時期・発生量（平年比）の予察根拠	6
4. 予察項目の見方	11
5. 今月のトピックス（ミナミアオカメムシについて）	12
6. 気象のデータ	13
7. おしらせ	15

1. 向こう 1 か月の予報と対策

1) 作物

イネでは、斑点米カメムシ類の発生量は**やや多**と予想されますので、周辺圃場の収穫状況に注意しながら、穂揃い期の薬剤散布を行ってください。ツマグロヨコバイの発生量は**やや少**、トビイロウンカの発生量は**少**と予想されます。

ダイズでは、ハスモンヨトウおよび吸実性カメムシ類の発生量は**やや多**と予想されますので、圃場での発生状況に注意してください。

2) 果樹

カンキツでは、黒点病、かいよう病（中晩柑）、チャノキイロアザミウマの発生量は**やや多**と予想されます。黒点病では後期感染の時期ですので感染防止に努めてください。かいよう病（中晩柑）では台風の接近等が予想される時は適切に薬剤防除をしてください。チャノキイロアザミウマでは被害発生部位は主に果頂部になるので丁寧に観察してください。かいよ

う病（温州みかん）の発生量は**平年並**、ミカンハダニの発生量は**やや少**と予想されます。

果樹共通では、果樹カメムシ類の発生量は**少**と予想されます。

3) 茶

チャでは、炭疽病、カンザワハダニ、チャノミドリヒメヨコバイの発生量は**平年並**、チャノキイロアザミウマの発生時期および発生量は**平年並**、クワシロカイガラムシの発生時期は**やや遅**、発生量は**平年並**、チャノホソガの発生時期は**やや遅**、発生量は**やや少**と予想されます。

4) 野菜

イチゴでは、炭疽病の発生量は**やや多**と予想されます。薬剤による予防防除と、罹病株およびその周辺株の除去を徹底してください。

ネギでは、シロイチモジヨトウの発生量は**平年並**と予想されます。

2. 作物別の状況

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生活消長の一例				防除の注意事項		
			平年比	平年比		程度	平年比	8月			9月	
								下旬	下旬		中旬	下旬
イネ (普通期)	斑点米カメムシ類	—	やや多	中	普通	被害量					<ol style="list-style-type: none"> 1) 周辺圃場で収穫作業があるときは、侵入に注意してください。 2) 追加防除する場合は、周辺圃場の収穫状況を考慮してください。 3) ミナミアオカメムシの発生地域では発生状況に注意してください。今月のトピックスを参考にしてください。 	
	ツマグロヨコバイ	—	やや少	中	低	成虫密度					<ol style="list-style-type: none"> 1) 密度が高くないので防除の必要はありません。 	
	トビイロウンカ	—	少	小	低	成虫密度					<ol style="list-style-type: none"> 1) 多飛来が確認されていないので防除の必要はありません。 	
ダイズ	ハスモンヨトウ	—	やや多	中	普通	被害量					<ol style="list-style-type: none"> 1) 圃場を見回り、白変葉を目印として、早期発見に努めてください。 2) 薬剤散布は若齢幼虫期に行ってください。 3) 一部の合成ピレスロイド系およびカーバメート系殺虫剤に対して感受性が低いため、IGR系やジアミド系殺虫剤を使用しましょう。 	
	吸実性カメムシ類	—	やや多	中	普通	成虫密度					<ol style="list-style-type: none"> 1) ホソヘリカメムシ、イチモンジカメムシ、アオクサカメムシ、ミナミアオカメムシが莢を吸汁加害します。 2) 開花終期から莢伸長期に防除してください。 3) ミナミアオカメムシの発生地域では発生状況に注意してください。今月のトピックスを参考にしてください。 	

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生活消長の一例				防除の注意事項
						8月		9月		
		平年比	平年比	程度	平年比	下旬	上旬	中旬	下旬	
カンキツ	黒点病	—	やや多	中	普通					1) 乾燥が続くと樹勢の衰弱により枯れ枝が増加します。感染源となる枯枝の除去に努めてください。 2) 9月は後期感染の時期なので、感染防止に努めてください。
	かいよう病	—	温州平年並 中晩柑やや多	温州小 中晩柑中	温州普通 中晩柑高					1) 発病した夏秋梢や発病果等の除去に努めてください。 2) 防風対策を行うとともに、台風の接近が予想される場合は防除をしてください。 3) 高接樹や幼木については、ミカンハモグリガの防除も実施してください。
	ミカンハダニ	—	やや少	中	普通					1) 秋になって急増することがあるので、発生状況をよく観察してください。 2) 1葉当りの雌成虫寄生数が0.5~1.0頭程度を目安に防除してください。 3) 同一系統の薬剤の連用を避けてください。 4) 薬剤防除にあたっては、収穫前日数を遵守してください。
	チャノキイロアザミウマ	—	やや多	中	普通					1) この時期の被害発生部位は果頂部で、果実肥大が緩慢になり被害が判り難くなるため、丁寧な観察が必要です。 2) イヌマキ、サングジュ等の防風垣に隣接した樹で、被害が多くなることがあります。
果樹共通	カメムシ類	—	少	小	低					1) 例年飛来が多く見られる圃場では、圃場内の観察をきめ細かく行ってください。 2) 大雨、強風などの後に、急に園地へ多数飛来することがあります。カンキツやカキ圃場等の樹園地では、発生状況に十分に注意してください。 3) ナシ、ブドウの有袋栽培では、袋と果実が密着すると、袋の上から加害されることがあるので注意してください。

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生活消長の一例				防除の注意事項
			平年比	平年比		程度	平年比	8月	9月	
						下旬	上旬	中旬	下旬	
チャ	炭疽病	—	平年並	小	普通					<ol style="list-style-type: none"> 1) 防除時期は新芽の1葉期ごろです。 2) 新芽展開期に降雨が続くときは注意が必要です。 3) 同一系統の薬剤の連用は、耐性菌が出現しやすくなるので避けましょう。
	カンザワハダニ	—	平年並	小	普通					<ol style="list-style-type: none"> 1) 猛暑の時期が過ぎ、秋口に適温になると増加します。 2) 葉裏を丁寧に防除しましょう。 3) 同一薬剤の連用は抵抗性が発達しますので避けましょう。
	チャノホソガ (第4世代幼虫)	やや遅	やや少	小	普通					<ol style="list-style-type: none"> 1) 新芽に巻葉（三角巻葉）があると、その中に虫糞がたまり品質が低下します。 2) 新芽の開葉初期に防除しましょう。 3) 使用薬剤の収穫前日数を遵守してください。
	チャノミドリヒメ ヨコバイ	—	平年並	小	普通					<ol style="list-style-type: none"> 1) 集団防除が効果的です。 2) 新芽の開葉初期に防除しましょう。
	チャノキイロアザ ミウマ	平年並	平年並	中	普通					<ol style="list-style-type: none"> 1) 茶産地における防除摘期は8月中旬～9月上旬とされます。 2) 新芽開葉初期に防除しましょう。
	クワシロカイガラムシ	やや遅	平年並	小	普通					<ol style="list-style-type: none"> 1) 防除適期は孵化最盛日から5～7日目ごろで、北勢地域では9月中旬、中山間地では9月下旬です。 2) 孵化状況を確認して、株内に噴口を入れて防除しましょう。 3) 天敵にやさしい薬剤を選択しましょう。

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生活消長の一例				防除の注意事項		
			平年比	平年比		程度	平年比	8月			9月	
								下旬	中旬		下旬	中旬
イチゴ	炭疽病	—	やや多	中	普通	発病密度					<ol style="list-style-type: none"> 1) 病害虫防除技術情報第7号（8月12日発表）。 2) 薬剤による予防防除を徹底してください。 3) 株元まで薬剤が十分にかかるよう、不要な下葉を除去し、畝やベンチの両側からも丁寧に散布してください。 4) 罹病株は感染源となるため、見つけ次第速やかに除去し、圃場外に持ち出して処分してください。また、周辺株も感染の疑いがあるため、あわせて処分を行ってください。 5) 水滴の跳ね返りによって病原菌が広がりますので、灌水は丁寧に行ってください。 	
ネギ	シロイチモジヨトウ	—	平年並	中	普通	成虫密度					<ol style="list-style-type: none"> 1) 圃場をよく見回り、被害の早期発見に努めてください。 2) 幼虫は老齢になるほど薬剤の防除効果が劣るため、若齢幼虫のうちに防除を行ってください。 3) 卵は葉裏に卵塊で産みつけられます。卵塊や孵化直後の幼虫の集団、食害葉などを見つけたら直ちに取り除き、圃場外に持ち出して処分しましょう。 4) 施設栽培では、開口部に防虫ネットや寒冷紗などを張り、成虫の侵入を防いでください。 5) 雑草などにも寄生するため、圃場周辺の雑草管理を行いましょう。 	

3. 発生時期・発生量（平年比）の予察根拠

作物名	病虫害名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
イネ (普通期)	斑点米カメムシ類	—	やや多	<p>要因</p> <p>1) 予察灯では、クモヘリカメムシ誘殺数は松阪市（6月第1半旬～8月第2半旬）で水田位置2頭（平年1.7頭）と平年並、畑位置16頭（4年平均7.3頭）と多の傾向、伊賀市（6月第1半旬～8月第1半旬）で4頭（平年1.9頭）と多、紀北町（6月第1半旬～8月第1半旬）で9頭（平年2.3頭）と多、御浜町（6月第1半旬～8月第1半旬）で45頭（平年28.8頭）と多。ミナミアオカメムシ誘殺数は松阪市（6月第1半旬～8月第2半旬）で113頭（昨年12頭）と多の傾向（+）</p> <p>2) 巡回調査圃場（8月第1週）では、圃場すくい取りによる中型種成幼虫の発生圃場率は、ホソハリカメムシ16.7%（平年20.0%）とやや少、クモヘリカメムシ4.7%（平年7.0%）とやや少、シラホシカメムシ類5.4%（平年8.2%）とやや少。同調査における成幼虫数はホソハリカメムシ0.3頭（平年0.4頭）と平年並、クモヘリカメムシ0.1頭（平年0.2頭）とやや少、シラホシカメムシ類0.09頭（平年0.1頭）と平年並（±）</p> <p>3) 巡回調査圃場（8月第1週）では、圃場内でミナミアオカメムシ幼虫の発生を確認（+）</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は少～やや多（概して平年並）（±）</p> <p>考察： 予察灯および巡回調査圃場におけるミナミアオカメムシの発生状況を重視して、予想発生量はやや多と考えます。</p>
	ツマグロヨコバイ	—	やや少	<p>要因</p> <p>1) 予察灯（6月第1半旬～8月第1半旬）では、誘殺数は松阪市で14頭（平年40.2頭）と少、伊賀市で437頭（平年393.9頭）と平年並、紀北町で49頭（平年17.1頭）と多、御浜町で42頭（平年29.5頭）と多（±）</p> <p>2) 巡回調査圃場（8月第1週）では、発生圃場率40.9%（平年32.4%）と多、払い落とし成虫数0.8頭（平年1.8頭）と少、同幼虫数3.8頭（平年8.6頭）と少（-）</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は少～やや多（概して平年並）（±）</p> <p>考察： 巡回調査結果および一般圃場の発生状況から、予想発生量はやや少と考えます。</p>
	トビイロウンカ	—	少	<p>要因</p> <p>1) 予察灯（5月第1半旬～8月第1半旬）では、松阪市で0頭（平年2.9頭）、伊賀市で0頭（平年0.2頭）、紀北町0頭（平年0頭）、御浜町で2頭（平年0頭）と平年並に少ない傾向（±）</p> <p>2) 巡回調査圃場（8月第1週）では、発生圃場率0%（平年0.6%）と平年並の傾向、払い落とし成虫数0頭（平年0.6頭）と平年並の傾向（±）</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は無～平年並（概して平年並）</p> <p>4) 九州各県での多飛来はなく、現況報告では少～並（概してやや少）（-）</p> <p>考察： 三重県への多飛来はない状況であり、予想発生量は少と考えます。</p>

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
ダイズ	ハスモンヨトウ	—	やや多	<p>要因</p> <p>1) フェロモントラップ（7月第3半旬～8月第2半旬）では、誘殺数は菰野町で1014頭（5年平均585.4頭）と多の傾向、津市で465頭（4年平均401.3頭）とやや多の傾向、松阪市嬉野川北町で271頭（平年388.4頭）と少（+）</p> <p>2) 巡回調査圃場（8月第1週）では、葉食害度0.04（5年平均0.08）とやや少の傾向、1a当り白変か所数0か所（平年0.9か所）とやや少（-）</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は無～平年並（概して平年並）、8月中旬までに各地で白変葉の発生を確認（+）</p> <p>考察： フェロモントラップおよび一般圃場の発生状況から、予想発生量はやや多と考えます。</p>
	吸実性カメムシ類	—	やや多	<p>要因</p> <p>1) 予察灯（松阪市・7月第3半旬～8月第2半旬）では、誘殺数はアオクサカメムシ150頭（平年259.2頭）とやや少、イチモンジカメムシ36頭（平年25.9頭）と多、ミナミアオカメムシ113頭（昨年12頭）と多の傾向（+）</p> <p>2) 巡回調査圃場（8月第1週）では、25株当り寄生虫数0頭（平年0.09頭）と平年並（±）</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は無～平年並（概して平年並）（±）</p> <p>4) 水稲巡回調査圃場（8月第1週）では、圃場内で幼虫の発生を確認（+）</p> <p>考察： 予察灯および水稲圃場におけるミナミアオカメムシの発生状況から、予想発生量はやや多と考えます。</p>
カンキツ	黒点病	—	やや多	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報（8月12日発表）によると、平年と同様晴れの日が多い予想（±）</p> <p>2) 県予察圃（8月中旬）では、果実発病度80.6（平年46.9）と多（+）</p> <p>3) 巡回調査圃場（8月第1週）では、果実発病度は5.6（平年2.9）と多（+）</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は平年並～やや多（概してやや多）（+）</p> <p>5) 感染源となる枯れ枝の発生量は平年並（±）</p> <p>6)</p> <p>考察： 現状の発生量は一般圃場の状況を重視してやや多と思われ、引き続き予想発生量はやや多と考えます。</p>
	かいよう病	—	温州 平年並 中晩柑 やや多	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報（8月12日発表）によると、平年と同様晴れの日が多く（±）、気温は低くない予想（+）（±）</p> <p>2) 県予察圃（中晩柑・8月中旬）では、発病葉率0.5%（平年13.3%）と少、発病果率6.7%（平年28.4%）と少（-）</p> <p>3) 巡回調査圃場（8月第1週）のうち、温州みかんでは発病葉率0.9%（平年0.6%）とやや多（+）、発病果率0%（平年0.9%）と平年並に少（±）（+）</p> <p>4) 巡回調査圃場（8月第1週）のうち、中晩柑では発病葉率14.0%（平年7.2%）、発病果率17.0%（平年8.6%）といずれも多（+）</p> <p>5) 一般圃場の中晩柑では、発生量は平年並～多（概してやや多）（+）</p> <p>考察： 現状の発生量は一般圃場の状況を重視して、温州みかんは平年並、中晩柑類はやや多と思われ、大きな増減の要因がないので、予想発生量は温州みかんは平年並、中晩柑はやや多と考えます。</p>

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
カンキツ	ミカンハダニ	—	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報（8月12日発表）によると、平年と同様晴れの日が多く(±)、気温は低くない予想(－) (－)</p> <p>2) 県予察圃（8月中旬）では、100葉当り寄生虫数は、無防除区で6.7頭（平年28.4頭）と少(－)、慣行防除区で114.4頭（平年91.3頭）と平年並(±) (－)</p> <p>3) 巡回調査圃場（8月第1週）では、新葉における寄生葉率は3.8%（平年6.3%）、寄生虫数は0.08頭/葉（平年0.30頭/葉）といずれもやや少 (－)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は平年並～やや多（概して平年並） (±)</p> <p>考察： 現状の発生量は圃場によるばらつきがありますが概してやや少と思われる、引き続き予想発生量はやや少と考えます。</p>
	チャノキイロアザミウマ	—	やや多	<p>要因</p> <p>1) 県予察圃粘着トラップ（7月11日～8月10日）では、誘殺数は26.5頭（平年23.2頭）とやや多 (+)</p> <p>2) 県予察圃（8月中旬）では、100果当り寄生虫数は26.7頭（平年29.5頭）と平年並 (±)</p> <p>3) 巡回調査圃場（8月第1週）では、被害果率は0%（平年2.8%）と少 (－)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は平年並～やや多（概してやや多） (+)</p> <p>考察： 県予察圃及び一般圃場の状況を重視して、現状の発生量はやや多と思われる、引き続き予想発生量はやや多と考えます。</p>
果樹共通	カメムシ類	—	少	<p>要因</p> <p>1) 予察灯（御浜町：8月1日～10日）では、誘殺数はチャバネアオカメムシ32頭（平年586頭）と少、ツヤアオカメムシ11頭（平年23頭）と少 (－)</p> <p>2) 予察灯（畑・松阪市：7月11日～8月10日）では、誘殺数はチャバネアオカメムシ4頭（平年591頭）と少、ツヤアオカメムシ1頭（平年79頭）と少、クサギカメムシ19頭（平年240頭）と少 (－)</p> <p>3) フェロモントラップ（7月9日～8月8日）では、チャバネアオカメムシ誘殺数は、山地（津市白山町川口）で54頭（平年1,452頭）と少、中間地（津市白山町二本木）で38頭（平年2,638頭）と少、平坦地（松阪市嬉野川北町）で0頭（平年610頭）と少 (－)</p> <p>4) 巡回調査圃場（8月第1週）では、圃場への飛来は未確認 (－)</p> <p>5) 一般圃場では、少～やや少（概して少） (－)</p> <p>考察： 現状の発生量は少なく、引き続き予想発生量は少と考えます。</p>

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
チャ	炭疽病	—	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(8月12日)では、平年と同様に晴れの日が多い予想 (±)</p> <p>2) 県内全域で7月中旬から8月上旬にかけて、まとまった降雨を観測 (+)</p> <p>3) 巡回調査圃場(8月第1週)では、発病葉数は0.3枚/m²(平年1.5枚/m²)と少 (-)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量はやや多 (+)</p> <p>考察：巡回調査結果から現状の発生量は少の状況ですが、8月上旬に感染の機会があったため、予想発生量は平年並と考えます。</p>
	カンザワハダニ	—	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(8月12日)では、気温は低くなく(-)、平年と同様に晴れの日が多い(±) (-)</p> <p>2) 県予察圃(8月上旬)では、寄生葉率は8.0%(平年4.1%)と多、寄生頭数は0.22頭/枚(平年0.16頭/枚)とやや多 (+)</p> <p>3) 巡回調査圃場(8月第1週)では、寄生葉率は2.7%(平年1.2%)と多、寄生頭数は0.05頭/葉(平年0.06頭/葉) (+)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量はやや多 (+)</p> <p>考察：現状の発生量はやや多と判断されますが、高温による増殖抑制を考慮して予想発生量は平年並と考えます。</p>
	チャノホソガ (第4世代幼虫)	やや遅	やや少	<p>要因</p> <p>1) 県予察圃における第3世代発生ピークは7月第4半旬(平年第2半旬)と遅 (発生時期+)</p> <p>2) 県予察圃(8月第2半旬)では、フェロモントラップ誘殺数は155頭(平年529頭)と少 (-)</p> <p>3) 巡回調査圃場(8月第1週)では巻葉数は0.9枚/m²(平年3.1枚/m²)と少 (-)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は少 (-)</p> <p>考察：第3世代発生時期から見て第4世代発生時期はやや遅と考えます。現状の発生量は少と判断されますが、今後増加が見込まれる時期のため、予想発生量はやや少と考えます。</p>
	チャノミドリヒメ ヨコバイ	—	平年並	<p>要因</p> <p>1) 県予察圃(8月第2半旬)では、吸引粘着トラップ捕殺数は3頭(平年2.7頭)とやや多 (+)</p> <p>2) 巡回調査圃場(8月第1週)では、たたき落とし虫数は2.3頭(平年0.7頭)と多 (+)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量はやや少 (-)</p> <p>考察：現状の発生量は平年並と判断され、引き続き予想発生量は平年並と考えます。</p>

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
チャ	チャノキイロアザミウマ	平年並	平年並	<p>要因</p> <p>1) 有効積算温度による発生消長予測式では、第5世代成虫の発生ピークは8月17日(平年8月15日)と平年並(±)</p> <p>2) 県予察圃(8月第2半旬)では、吸引粘着トラップ捕殺数は380頭(平年935.6頭)と少(−)</p> <p>3) 巡回調査圃場(8月第1週)では、たたき落とし虫数は7.7頭(平年6.8頭)とやや多(+)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は平年並(±)</p> <p>考察：現状の発生量は平年並と判断され、引き続き予想発生量は平年並と考えます。</p>
	クワシロカイガラムシ	やや遅	平年並	<p>要因</p> <p>1) 有効積算温度による発生消長予測式では、第3世代幼虫孵化最盛日は9月13日(平年9月9日)とやや遅(発生時期+)</p> <p>2) 巡回調査圃場(8月第1週)では、雌成虫寄生株率は7.3%(平年7.5%)と平年並(±)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量はやや多(+)</p> <p>考察：発生消長の予測式から、第3世代幼虫の発生時期はやや遅と考えます。現状の発生量は平年並と判断され、引き続き予想発生量は平年並と考えます。</p>
イチゴ	炭疽病	−	やや多	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(8月12日発表)によると、平年と同様に晴れの日が多い予想(±)</p> <p>2) 巡回調査圃場(8月第1週)では、発病株率は3.3%(平年0.8%)と多(+)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は平年並～やや多(概してやや多)(+)</p> <p>考察：現状の発生量はやや多と思われ、引き続き予想発生量はやや多と考えます。</p>
ネギ	シロイチモジヨトウ	−	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(8月12日発表)によると、平年と同様に晴れの日が多い予想(±)</p> <p>2) フェロモントラップ(松阪市嬉野川北町)の成虫誘殺数(7月第4半旬～8月第3半旬)は39頭(平年48頭)とやや少(−)</p> <p>3) 巡回調査圃場(8月第1週)では、被害葉率は0%(平年1.9%)と少(−)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量はやや少(−)</p> <p>考察：現状の発生量はやや少と思われませんが、今後の増加を考慮して、予想発生量は平年並と考えます。</p>

4. 予察項目の見方

1) 「作物別の状況」の見方

発生時期（平年比）： 平年の発生月日からの差を「早、やや早、平年並、やや遅、遅」の5段階評価で予測します。ただし、発生時期が毎年大きく変化する病害虫では、日数の基準が下記より大きくなります。発生時期を予察する意義の小さい病害虫では予察しません。

日数	-6	-5	-4	-3	-2	-1	平年 発生日	1	2	3	4	5	6
評価	早	やや早		平年並				やや遅		遅			

発生量（平年比）： 発生密度の平年値からの差を「少、やや少、平年並、やや多、多」の5段階評価で予測します。平年値との比較なので、平年値が小さければ、「多」になっても見かけの密度は多くないことがあります。毎年多発生している場合は「平年並」や「やや少」でも見かけ上は多いと感ずることがあります。

			平年値 ↓			
度数	10%	20%	20%	20%	20%	10%
評価	少	やや少	平年並	やや多	多	

発生量（程度）： 発生程度を「小、中、大、甚」の4段階評価で予測します。評価の基準値は病害虫毎に異なりますが、大雑把には、「見た目の多さ・少なさ」です。甚になるほど見た目は多くなり、小になるほど見た目は少なくなります。「発生量（平年比）」と比べることによって、「平年並に発生程度が小さい」「発生程度は大きい平年並の発生量である」「平年より多いが、発生程度は小さい」「平年よ

りやや少ないが、依然として発生程度は中くらいである」等のように判断してください。

小	中	大	甚
---	---	---	---

要防除圃場率（平年比）： 防除の必要性の目安を「低、普通、高」の3段階評価で予測します。「普通」であれば、県下の大半の圃場では防除暦に沿った通常の防除をしていればいいと予想されます。「高」であれば、防除時期の見直しや追加防除などが必要な圃場の割合が相当増加すると予想されます。「低」であれば、防除回数を減らせるか防除しなくても済むような圃場の割合が相当増加すると予想されます。

低	普通	高
---	----	---

発生消長の一例： 発生予報は向こう1か月の予報ですが、その前後を合わせて40日ほどの病害虫の発生消長の一例をグラフで示します。大まかな目安として利用してください。

防除の注意事項： 向こう1か月の病害虫の特性と防除に関する説明です。

2) 「発生時期・発生量（平年日）の予察根拠」の見方

(±)：平年並の要因

(+)：発生量増加または発生時期遅延の要因

(-)：発生量減少または発生時期早期化の要因

5. 今月のトピックス 「ミナミアオカメムシについて」

◆イネおよびダイズにおける吸汁害◆

本種は成虫および幼虫が、イネの穂やダイズの子実を吸汁して加害します(図1, 2)。イネ(主に普通期)では斑点米、ダイズでは被害粒や青立ちの原因となります。本種は野菜類や果樹類も加害しますが、特にイネに対する嗜好性が高く、従来の斑点米カメムシ類に比べて加害能力が高いと報告されているため、注意が必要です。



図1 ミナミアオカメムシ成虫(体長12~16mm)

◆三重県内での分布拡大と発生消長◆

本種は冬の冷え込みに弱いため、三重県では少なくとも30年程前は東紀州地域でのみ分布していました。しかし近年、県南部から分布が北上、拡大し、2010年には伊賀地域と中山間を除く、伊勢平坦地全域で発生が確認されました(図3)。

三重県内での発生消長は不明な点が多く、現在農業研究所において調査中です。県北中部における調査では、イネで増殖した個体がダイズへ移動して加害すると考えられました。ダイズ栽培では、近隣のイネでの発生状況に注意しましょう。

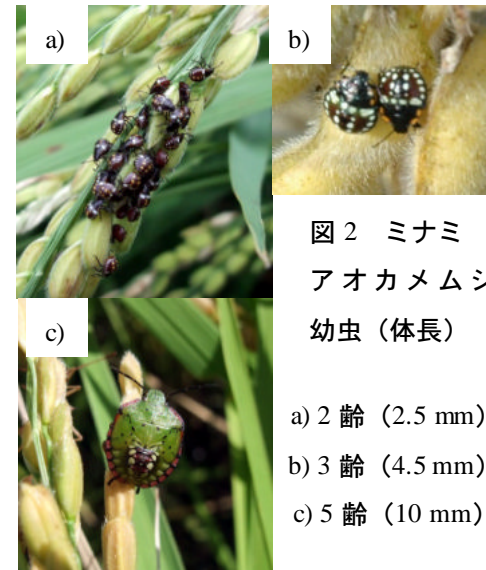


図2 ミナミアオカメムシ幼虫(体長)

- a) 2 齢 (2.5 mm)
- b) 3 齢 (4.5 mm)
- c) 5 齢 (10 mm)

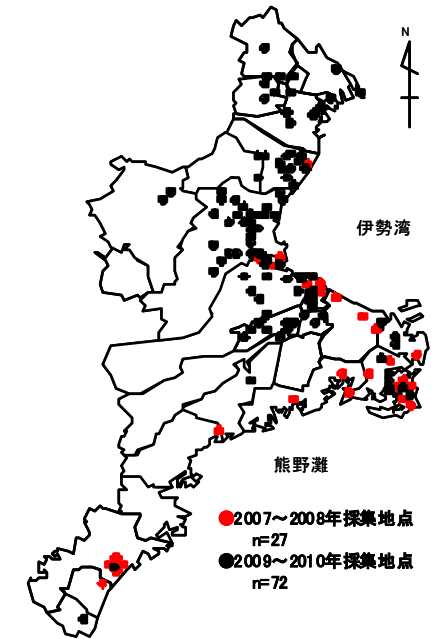


図3 県内における発生状況(2007~2010年・農業研究所)

◆防除対策◆

基本の対策は、他種の斑点米カメムシ類や吸実性カメムシ類と共通です。

- ・畦畔など周辺雑草(クサネムなど)の刈り取りによる耕種的防除。
- ・イネでは穂揃い期の薬剤散布、ダイズでは結莢期から子実肥大期の薬剤散布。発生が続く場合は追加散布が必要。

本種は一部の合成ピレスロイド系殺虫剤(Mr. ジョーカーなど)では、効果が低いことが確認されています。発生地域では効果の高い殺虫剤(スタークルやキラップなど)を選択しましょう。

本種は見た目の似た種が多く、幼虫での判別は困難です。成虫の判別については、防除所ホームページの資料 <http://www.mate.pref.mie.lg.jp/miwakekata/index.htm> を参考にしたり、防除所や農業研究所、地域普及センターで直接相談したりしてください。

6. 気象のデータ

東海地方1か月予報 (平成23年8月12日 名古屋地方気象台発表)

東海地方の向こう1か月は、平年と同様に高気圧に覆われて晴れの日が多いでしょう。南からの湿った気流や寒気の影響を受ける時期がある見込みです。

1週目 8月13日～ 19日	期間の中頃までは高気圧に覆われて概ね晴れますが、終わりは気圧の谷や湿った気流の影響で雲が広がりやすいでしょう。	津の降水日数・晴れ日数の平年値 2.1日・4.7日
2週目 8月20日～ 26日	平年と同様に高気圧に覆われて晴れの日が多いでしょう。気圧の谷や寒気の影響を受けて、雷雨の発生しやすい時期がある見込みです。	同 1.9日・4.6日
3～4週目 8月27日～ 9月9日	平年と同様に高気圧に覆われて晴れの日が多いでしょう。気圧の谷や南からの湿った気流の影響を受ける時期がある見込みです。	同 4.1日・8.6日

東海地方週間天気予報 (平成23年8月17日10時35分 名古屋地方気象台発表)

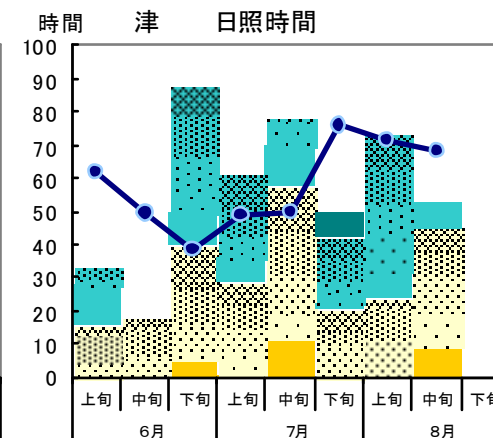
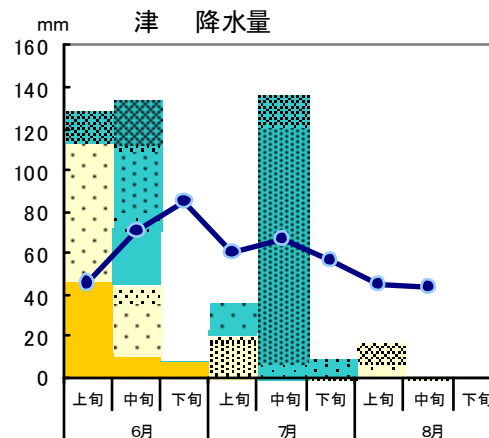
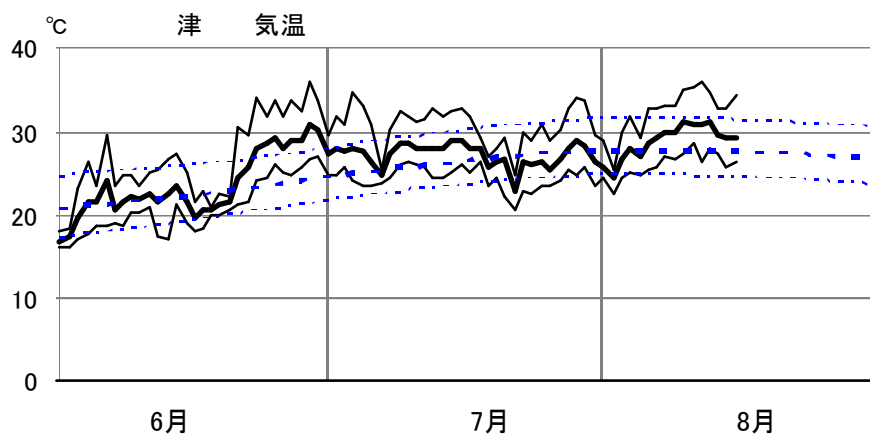
予報期間 8月18日～8月24日

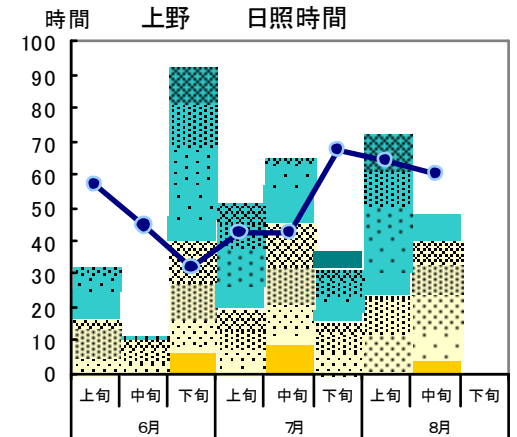
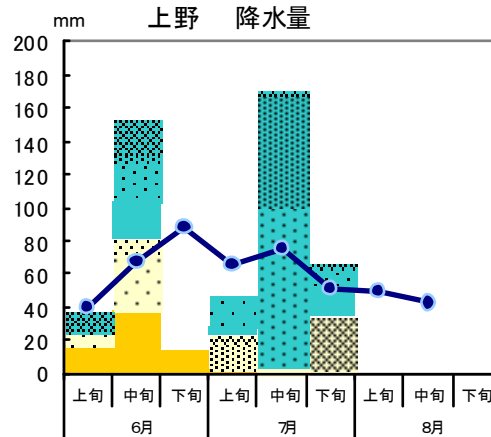
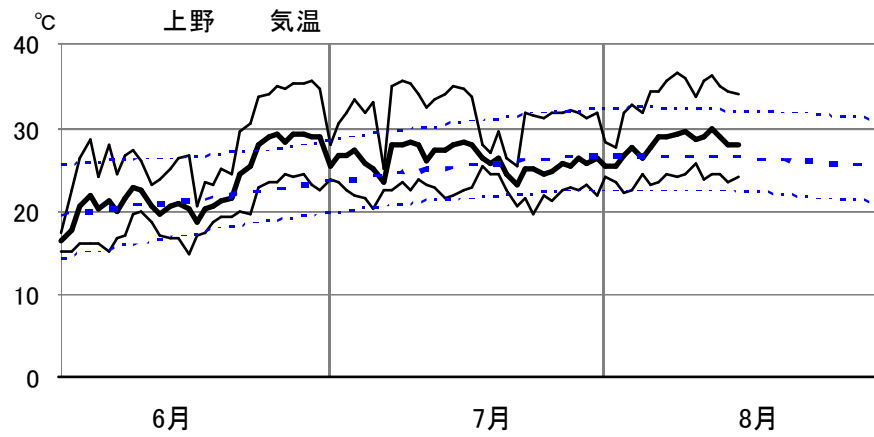
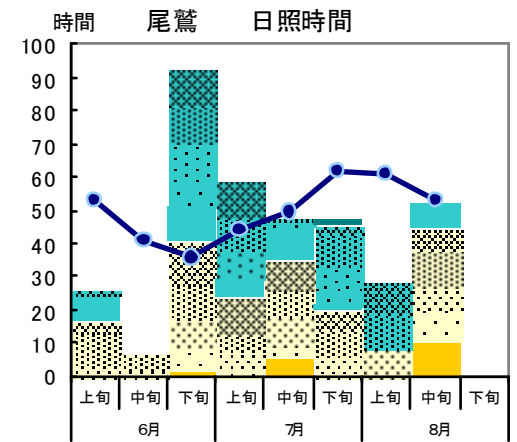
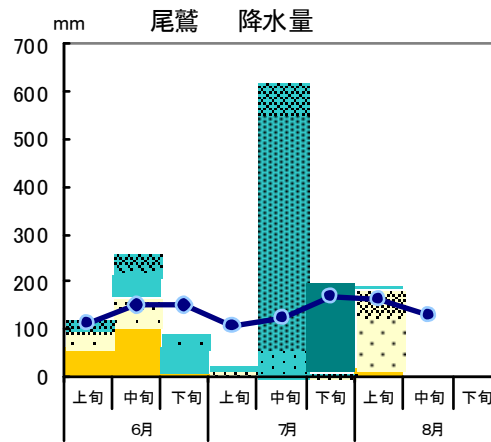
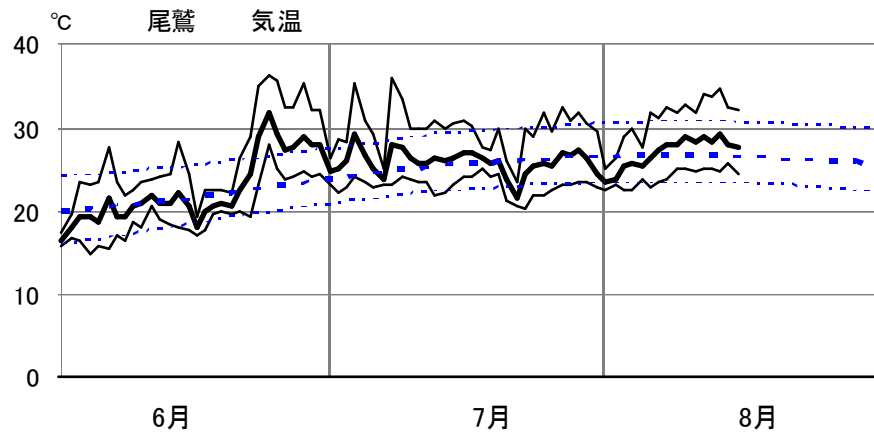
向こう一週間は、気圧の谷や湿った気流の影響で雲が広がりやすく、期間のはじめは雨が降るでしょう。

最高気温と最低気温はともに、期間のはじめは平年より高い日がありますが、その後は平年並か平年より低い見込みです。

降水量は平年並でしょう。

気象の日別推移 (気象庁発表データ <http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etm/index.php> から作成、5月18日に平年値が変更されました) (8月16日まで)





凡例

- 平均
- 最高
- 最低
- 平年 平均
- 平年 最高
- 平年 最低

凡例

- 31日
- 旬10日目
- 旬9日目
- 旬8日目
- 旬7日目
- 旬6日目
- 旬5日目
- 旬4日目
- 旬3日目
- 旬2日目
- 旬1日目
- 旬平年値

凡例

- 31日
- 旬10日目
- 旬9日目
- 旬8日目
- 旬7日目
- 旬6日目
- 旬5日目
- 旬4日目
- 旬3日目
- 旬2日目
- 旬1日目
- 旬平年値

7. おしらせ (前回と異なる項目には **NEW** の印があります)

1) 記載基準の注意点

平年ほとんど発生のないか非常に少ない病害虫については、平年並に少ない発生状態の「発生量平年比」を「平年並」、「発生量程度」を「小」と記述しています。

2) 発表日 **NEW**

本年度の病害虫発生予報は次の予定で発表します。

- 第1回 4月21日(済み) 第2回 5月26日(済み)
- 第3回 6月23日(済み) 第4回 7月21日(済み)
- 第5回 8月18日(今回) 第6回 10月20日(木)
- 第7回 3月22日(木)

3) 利用方法

全部または一部をコピーして回覧・配布にご利用ください。ただし必ずページの右下にある「三重県病害虫防除所」の文字が入るようにしてください。

病害虫防除所ホームページには、この予報をはじめとして、不定期に発表される警報、注意報、特殊報、技術情報や、各種のグラフ、写真も載っています。下記のアドレスからお入りください。

<http://www.mate.pref.mie.lg.jp/bojyosyo/>

このホームページはフリーリンクです。リンクする場合、事前の承諾申請等は不要ですが、事後で結構ですのでメールにてご一報いただくと幸いです。

4) 本冊子の利用の手引き書

本冊子の見方を説明した「病害虫発生予報利用の手引き」があります。下記のアドレスからお入りください。

http://www.mate.pref.mie.lg.jp/Bojyosyo/files/h23yohotebiki_.pdf

5) メール配信サービス

予報、警報、注意報、特殊報、技術情報が発表されたときに、ホームページに掲載されたという「掲載通知」を電子メールでお知らせしています。このメールの配信を希望される方は、下記のアドレスからお申し込みください。

<http://www.mate.pref.mie.lg.jp/bojyosyo/merumaga.htm>

6) 農薬登録状況の最新情報

農薬の販売や使用に当たっては、農薬登録上の制限があります。農薬の使用時はラベルをよく読んでください。次のインターネットサイトでは、最新の農薬登録状況が確認できます。

独立行政法人農林水産消費安全技術センターの「農薬登録情報提供システム」

http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm

7) 気象データの平年値

気象データの平年値が5月18日に更新され、1981年～2010年の30年間の平均値に変わりました。今回の変更により、全国的に平均気温が0.2～0.4℃程度高くなりました。